

スマートファクトリー化支援事業強化のための戦略構築

会社名 鈴鹿エンジニアリング株式会社
 所在地 三重県四日市市小古曾東二丁目1-65
 従業員 27名
 資本金 6,000万円
 売上高 約5億6,000万円
 業種 ゴム精練ラインの設計、施工(製造業)



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 今後は、全体運営システムや全体統合管理のサービスも展開し、より高度なゴム精練スマートファクトリーの担い手として業界をリードしたい。

支援を受けてできるようになったこと

After

- BtoB事業の特性も踏まえた、特許等による知財戦略の検討が進んだ。
- モノ事業とコト事業の両利きの経営について具体的な整理が進み、翌年度の事業計画にも反映できた。
- 強みであるノウハウ等の創出・維持に向け、採用・人材育成の在り方の議論が成熟。

今後の事業展開の展望

Future

- ソリューション事業において、リニューアルするポイントを整理することができたので、実行に移していくフェーズに入る。
- 検討したビジネスモデルや顧客ターゲットを念頭に、ブランディングの具体的なアクションを実行していき、顧客獲得や関係性構築に取り組む。

重点支援を受けた事業や商材

ゴム精練工程と呼ばれるゴム素材の加工工程用の特殊産業用機械装置の設計製作や、工場のエンジニアリング、生産実行システムの構築を事業としている。ゴム精練工程に必要なすべてをワンストップで提供できる強みを持つ。



重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
ビジネスモデル	装置メーカーからソリューション企業へと変貌をとげるための、ビジネスモデルを策定することが必要。
知財戦略	統合システムの提供ビジネスを本格的に行うにあたり、従来特許以外にも取得することが望ましい技術領域が存在。
サービスや技術のブランディング	ゴム精錬工程における統合ソリューションは新たなサービス市場であり、付加価値付けを通じて市場開拓をするためにもブランディングが必要。
関連企業との契約	統合ソリューションを提供するにあたり、情報処理系のパートナー企業と連携する必要がある。
社内体制の整備	熟練工社員のノウハウ伝承や社内体制の見直しが課題。



重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> モノ事業とコト事業の両利きの経営について具体的な整理が進み、翌年度の事業計画にも反映できた。 	中小企業診断士 弁理士
知財戦略	<ul style="list-style-type: none"> 装置関連技術はもとより、ソリューションの単位で知財保護がなされるために、システムやデータにも配慮した知財戦略・事業戦略を検討できた。 	弁理士
サービスや技術のブランディング	<ul style="list-style-type: none"> 提供価値の検討・言語化を実施。 技術ブランディングの取組み方について理解。 情報発信の取組やHPの在り方について検討。 	ブランド・デザイン 専門家 弁理士
関連企業との契約	<ul style="list-style-type: none"> ソフト系の関連企業とのパートナーシップ契約について、抑えるべきポイントがあることを把握。 	弁理士
社内体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 強みであるノウハウ等の創出・維持に向け、採用・人材育成の在り方の議論が成熟。 	中小企業診断士 弁理士

支援チーム紹介

リーダー専門家: 弁理士 藤掛 宗則
 活用専門家: 中小企業診断士、ブランド専門家、弁理士
 知財総合支援窓口担当者: 三重県知財総合支援窓口 村上 一仁
 PO(プログラムオフィサー): 中 泰広